

宮城県中学校野球秋季選抜大会 特別規定

【選手登録】

- 1 チームの編成は、監督（引率者）1名、選手9名以上18名以内とする。女子の参加も認める。この他に部長、コーチとして2名追加することができる。また、スコアラーは生徒に限り1名登録できる。なお、登録された者のみベンチに入ることができる。
- 2 1において、中学校では、監督・部長は当該校の校長・教員・部活動指導員とする。コーチは当該校の教職員・部活動指導員もしくは外部コーチとする。外部コーチは1名までとし、当該校長が認めた者でその証明書を申込時に提出する。
- 3 1において、地域クラブでは、継続的に活動し、宮城県野球連盟に加盟していること。監督1名、コーチ2名以内は、そのチームを継続的に指導している者とする。そして、ベンチ入りする監督、コーチのうち1名は、日本中学校体育連盟軟式野球競技部参加規定細則に定める指導者資格を有すること。また、大会期間中は審判員資格（一般財団法人全日本野球協会アマチュア野球規則委員会公認3級審判員）を持つ者を1名以上帯同させること。指導者資格及び審判員資格のコピーを申込時に提出する。
- 4 中学硬式野球団体へ登録している選手の登録は認めない。同様に、学生及び他団体（プロ、大学、高野連、中学硬式野球リーグ等）に所属する者は、コーチとして登録できない。
- 5 登録選手・監督等の変更は、理由を付記した変更願書を提出する。また、監督がやむを得ない事情により一部の日程で引率、ベンチ入りすることができない場合は、理由書の提出によって、当該校教員である部長またはコーチが代理を務めることができる。なお、変更願書及び理由書は任意様式（職印必須）とし、大会初日の受付時に提出すること。

【競技を行うにあたって】

- 6 正式試合は、通常7イニングから成る。5回（4回1／2）以降、7点差以上の差がある時はコールドゲームを適用する。また、試合時間の制限は行わない。
- 7 暗黒・降雨等で7回までイニングが進まなくても、5回（4回1／2）を終了すればゲームは成立する。暗黒・降雨等で5回以前に中止になった場合、また5回を過ぎ同点で試合が中止の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。決勝戦も同様とする。
- 8 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
- 9 本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、大会役員が協議の上、宮城県中学校体育連盟軟式野球専門部会長の権限により処理する。

【試合開始前】

- 10 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し、決定する。
- 11 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は試合開始予定時刻の60分前までとする。ただし、第1試合の前に開始式等がある場合は、本部で決定し連絡する。監督と主将は、指定様式の打順表を5部（球審・対戦相手・大会本部・放送席・自チーム控え）持参し、登録原簿と照合ののち、球審立ち会いのもと攻守を決定する。

- 12 シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
 - (2) 後攻側から始め、時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名以内の補助員(当該チーム選手)をつけて行うことができる。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
 - (6) シートノックを希望しないチームは、攻守決定時に本部へ伝える。
- 13 ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
- 14 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始時刻を早める場合がある。その際、開始予定時刻より30分以上は早めない。

【試合中】

- 15 ベンチ内での指示用メガホン使用は、監督に限る。
- 16 電子機器類（携帯電話・パソコン等）の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 17 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
- 18 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り7球以内（1分を限度）が許される。次回からは3球以内とする。また、正捕手の装具準備時において残り2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
- 19 4回終了時及びタイブレーク開始前にグラウンド整備を行う。
- 20 監督が投手のところに行く回数について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- 21 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、[20]と同じ行為であれば回数に数える。

【その他】

- 22 テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。
- 23 同一日に続けて試合を行う場合、試合終了50分後を目安に次の試合を開始する。打順表の提出は、試合開始予定時刻の20分前までとする。
- 24 投球数制限について、競技者必携(少年部)に定めのある「1週間350球以内」は適用しない。
- 25 DH制は適用しない。

宮城県中学校野球秋季選抜大会 競技上の注意事項

- 1 選手の頭髪・身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのことスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
- 2 応援については、監督が責任をもつ。
- 3 応援は次のことを守って応援すること。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) スタンドでのまとまった応援は、ベンチよりも外野側または指定された場所で行う。
 - (3) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側のときは座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - (4) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - (5) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (6) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (7) メガホンを使用してもよい。
 - (8) 笛（ホイッスル）は使用してもよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどのときに、笛で盛り上げることをないようにする。
 - (9) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
- 4 監督等の服装については、次の通りとする。
 - (1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番、コーチは29番、28番の背番号をつける。
 - (2) 監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（白いワイシャツまたはポロシャツが望ましい）に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。
 - (3) サングラスは使用しない。事情があって使用を希望する場合は、参加申込時に許可を得る。
- 5 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
- 6 試合開始・終了時の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をすることはしない。
- 7 試合終了の挨拶をもって全てを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
- 8 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (2) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - (3) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
- 9 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

宮城県中学校野球秋季選抜大会 確認事項

1 ユニフォームの着用について

- (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
- (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。

公益財団法人全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、都道府県に関連するものをつけることができる。なお、右袖には社章、商章、クラブのマスコット等をつけることは差支えない」と記されている。本大会では特に規制はしないがこの規程に沿ったものを推奨する。

2 ユニフォーム以外の用具・装具等について

- (1) 用具・装具の使用は、以下に定められたもの以外、公認野球規則及び競技者必携に定められたものを使用しなければならない。また、特に記載のない用具・装具等については原則使用禁止とする。
- (2) 使用を禁止するもの
 - ① リストバンドは使用できない。
 - ② 滑り止めスプレーは使用できない。
 - ③ 走者が出塁時に、一回り大きいサイズの走塁用手袋は使用できない。
 - ④ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
 - ⑤ レッグガード・エルボーガード・手甲ガード等は原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
- (3) 使用できるが、色等の指定があるもの
 - ① 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。色は白または黒の一色とすることが望ましい。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。
 - ② ヘルメットはSGマークのついたもので、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。
 - ③ 会場の規定により金属製スパイクは使用できない。ゴム製スパイクまたはトレーニングシューズ等を使用すること。
 - ④ 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただし、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。
 - ⑤ アームスリーブは医療目的に限り、サポーターに準じて使用を認める。ただし、アンダーシャツと同色とする。

- (4) 試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得た場合に使用できるもの
- ① 医療目的でのサポーター（手首や指を固定，保護する目的のもの）の使用は認める。ただし，色は白・黒・ベージュの色のものとする。
 - ② 健康上の理由及び球場の条件によって，サングラスの使用を認める。フレームは，黒・紺・グレーの色のもので，レンズはスモークを基調にした著しく反射がしないものとする。

3 その他の事項

- (1) テントの設置については，スタンド（各ベンチより外野側は設営可）のみとし，それ以外へのテントの設営は禁止する。
- (2) 試合前のグラウンドでのウォームアップに関して以下の事項を守ること。
 - ① 登録メンバー（選手，監督，コーチ）と補助員3名以内のみとする。
 - ② ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。ただし，第1試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたTシャツも可とする（アンダーシャツのみは禁止）。
 - ③ グラウンドに出る際は，必ず着帽する。
- (3) 補助員の服装は選手と同じユニフォームとするが，準備（用意）できない場合は練習用ユニフォームまたはチームTシャツでもよい。
- (4) 教員が平服でベンチに入る場合は，緊急時対応（怪我等）以外，グラウンドに出ることができない。ノック等でグラウンドに出る場合は，ユニフォームを着用すること。

4 野球規則，競技者必携に記載があるが，もう一度確認してもらいたいこと

- (1) 7回を完了して同点の場合，延長戦は行わず，タイブレイク方式を用いて勝敗が決するまでこれを継続する。

<タイブレイク方式>

継続打順で，前回の最終打者を一塁走者とし，二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち，0アウト1・2塁の状態にして1イニング行い，得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は，さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお，規定によって認められる選手の交代は許される。

- (2) 投手が手首や腕にサポーターなどを使用することは禁止する。テーピングについても投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- (3) 試合前のグラウンドでのハーフ打撃，フリー打撃は禁止し，トスパッティングまでとする。
- (4) 次の試合の先発バッテリーに限り打順表の交換後，試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
- (5) 選手交代の申し出は，監督が行う。
- (6) コーチは試合前のノックを行うとき以外は，ベンチから出ない。
- (7) 守備時間が長引いた場合，イニングの途中でも給水タイムを設ける（20分を目安に本部で判断し，打者のプレイ完了後に給水タイムを設ける）。
- (8) 投手の投球数は1日100球以内とする（タイブレイク方式も含める）。ただし，投球数が100球に達した打者までは100球を超えて投球してもよい。なお，ダブルヘッダーとなった場合も本規定を適用する。
- (9) 用具・装具については，試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。点検内容は監督会議で提示する。なお，用具・装具で指摘を受けた時に補修することは認める。その場合，補修完了後，再度点検を受ける必要がある。

宮城県中学校野球秋季選抜大会 用具等点検内容

1 バット

- (1) 金属疲労による「ひび」などがないか。
- (2) へこみやくぼみ、亀裂はないか。
- (3) 木製バット以外の握りの部分は、市販のグリップテープ専用テープで止めてあるか。
- (4) グリップテープが摩耗していたり、剥がれたりしていないか。
- (5) エンドテープが剥がれていないか。
- (6) 金属バットは、J S B B公認のものであるか。
- (7) バットの規制がある場合は、規格外のものはないか。

2 ヘルメット

- (1) S Gマークがついているか。
- (2) 両側にイヤーフラップがあるか。
- (3) 内側の保護パットがついているか。また、パットが固定されているか。
- (4) 亀裂や破損はないか。
- (5) チームとして、色やデザインが同一（同意匠）であるか。

3 捕手の用具

- (1) マスク・レガース・プロテクターは、J S B B公認のものであるか。
- (2) ヘルメット・マスクは、S Gマークがついているか（2024年までマスクは努力義務）。
- (3) マスクにスロートガードが装着されているか。ただし、スロートガード一体型のマスクは装着しなくてよい。
- (4) マスク・レガース・プロテクター及びヘルメットに亀裂や破損はないか。
- (5) 捕手はファウルカップを装着しているか。
- (6) 予備捕手の装具についても、同様であるか。

4 グラブ

- (1) 「綴じ紐」の長さは、親指より長くないか。
- (2) 投手のグラブについて
 - ① 縁取り・縫い糸を除き白色・灰色以外のものであるか。
 - ② 色がPANTONEの色基準14番よりも薄い色でないか。
 - ③ 縁取り、絞め紐・縫い糸を除くグラブ本体（捕球面・背面・ウェブ）は2色までであるか。また、そのグラブの色と異なった色のものをグラブにつけていないか。

5 手袋

- (1) 野球用の手袋であるか。
- (2) 色は白・黒の単色が望ましいが、推奨事項のため、白・黒の単色でなくともよい。